

日本環境教育学会第29回東京大会エクスカーション(記録)
『源流親子留学』見学ツアー(山梨県小菅小学校)
山村での学びと暮らしの視点から

藤盛礼恵

Report: Excursion of the 29th Annual Meeting of
the Japanese Society of Environmental Education in 2018

Hiroe FUJIMORI

2018年8月27日に日本環境教育学会東京大会エクスカーションの受け入れを行い、15名の参加者があった。

午前是小菅小学校の「親子源流体験」事業について、教育長、学校長、移住者の方に話をうかがう内容で、藤盛がコーディネートを行った。山梨県小菅村は多摩川源流に位置する過疎地域だ。小菅小では、もともとの村民の子どもの数を上回る「親子源流体験」による移住の子どもが在学し、不登校はゼロ。3家庭から、移住した理由と現在の生活、子どもの様子などをうかがい、地域に学び地域に開かれ地域を拓く学校と、その学校や子どもを支える地域や行政が温かい関係性を築いている丁寧な教育環境を見せていただいた。

午後は「雑穀見本園」と「植物と人々の博物館」の見学を中心に木俣、黒澤が担当した。「雑穀見本園」では、キビ・アワ・ヒエ・シコクビエ・ハトムギを実際に目にしながら手に取り、ひとつひとつの特徴や起源、具体的な調理等の利用について木俣が解説を行った。

また、村の篤農家である守屋さんが守られている畑も案内することができた。守屋さんの畑を通して、自然豊かな山村の中に息づく人々の営みや世界観が伝わってくる内容であった。

最後に、移転したばかりの「植物と人々の博物館」で、蔵書や展示(狩猟文化等)を見ていただいた。

限られた短い時間ではあったが、今回のエクスカーションでは、参加した方々が地域に点在

しているものを、つながりをもって見ていただけた機会となっていればと、企画者としては期待するところである。

＜参加者の感想＞

大変充実したプログラムでした。午後の「植物と人々の博物館」が気になって参加しました。ちょっと残念な状況ですが、施設を維持することの難しさを痛感しました。雑穀とか、地域の人々と自然との関わりは、小菅村にきた人にとっては興味の有ることなので、是非人々が行きやすい形で再生されることを望みます。

展示については、道の駅のパツとしない展示室を活用することが出来れば良いなと思いました。一般向けの雑穀植物園も併設して。

午前中の親子移住の話は、予測してなかったテーマでしたが、ナカナカ興味深いものがありました。昼飯は、現地のものが沢山でナカナカ良かったです。ただし、漬物はイマイチ。特に沢庵はちょっと。漬物も地元の野菜で、地元でつけたものが欲しいと思いました。

以上、ありがとうございました。

配布資料 (2018.8.27)

自然文化誌研究会の紹介

■歴史

1974年に東京学芸大学自然文化誌研究会（学大探検部）創立、山村で民族植物学調査を開始。1975年に環境教育研究会、1988年に日本環境教育学会、および雑穀研究会の創立事務局を担当した。1984年から野外教育セミナーを、1988年から冒険学校を、1995年からタイとの環境学習キャンプ交流を始めた。この間、国内外で学術調査、冒険旅行を行ってきた。活動拠点は多摩・五日市町、秩父・大滝村から移動し、現在は甲斐・小菅村にある。東京都認証非営利活動法人。

■活動施設

- ・いつものキャンプ場：橋立集落
環境学習実践活動 冒険学校
ログビルダー 講習会
INCH まつり
タイー日本自然クラブ
- ・植物と人々の博物館：井狩集落
山村調査研究活動 森とむらの図書室（探検、環境、農林業、インド、タイ、欧米その他）
環境学習原論研究 山村調査資料、環境教育関連資料原本、民具・遺物などの展示
世界の栽培植物・雑穀標本、小菅村植物標本
- ・雑穀栽培見本園：中組集落
日本で栽培されてきた雑穀など
- ・相模原市藤野：雑穀栽培見本園、シードバンク、森とむらの図書室藤野分室
藤野倶楽部、雑穀街道の展示

■印刷物

会誌「ナマステ」、研究報告「民族植物学ノオト」、その他プロジェクト報告書

■連携

東京学芸大学・小菅村社会連携協定 サークルちえのわ／農学校
エコミュージアム日本村・ミューゼス研究会（トランジション小菅）トランジション・ジャパン
雑穀街道普及会、食農教育懇談会 など

自然文化誌研究会（東京都日野市）

代表：中込卓男、副代表：中込貴芳（東京）・小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）npo-inch@wine.plala.or.jp

自然文化誌研究会公式 HP：<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）

館長：木下善晴

植物と人々の博物館公式 HP : <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

雑穀・民族植物学関係個人 HP、生き物の文明への黙示録：<http://www.milletimplic.net/>

雜穀街道普及会：<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

藤野担当：宮本透

ミュージーズ研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）

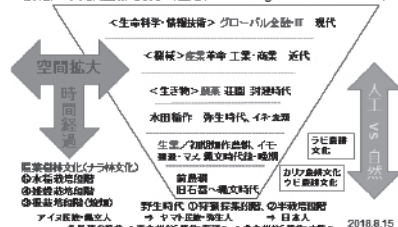
代表：青柳諭、副代表：亀井雄次

參考資料

現在日本で栽培されている雑穀	
増殖の起源地と学名	和名
アフリカ (サバナ)	
<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ
<i>Echinochloa crusgalli</i>	シコクビエ
1. 中央アジア～北西インド	
<i>Setaria italica</i>	アワ
<i>Panicum m. maximum</i>	キビ
2. 中国揚子江中部	
<i>Oryza sativa</i>	イネ
3. 中国南西部	
<i>Fagopyrum esculentum</i>	
<i>Fagopyrum tartaricum</i>	ソウ
4. 東部アジア	ダツタンノホ
<i>Cock. beryli</i> s. <i>bbi</i> var. <i>ma-yuen</i>	ハトムギ
中国アメリカ	
<i>Amaranthus hypochoeridicus</i>	センシニコギ
<i>Amaranthus caudatus</i>	ヒメグイトウ
<i>Chenopodium quinoa</i>	キヌア

現在日本の農耕文化の歴史的多層構造

現在日本の農耕文化の歴史的な多層構造
連続的に、混合的な生物文化多様性への蓄積と衰退
煩雑／単純、虚無・便利の超克(The nothing / The convenience)

[illegible]

ELF環境學習過程

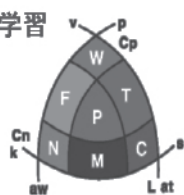
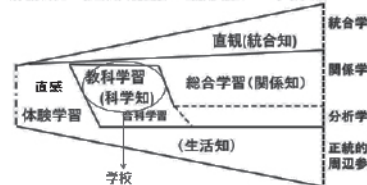


図 1: ELP 環境学習プログラムの枠組み
 基礎学習プログラム 白石 H, 文化 LC, 伊藤 K
 専門学習プログラム 生田 M, 黒田 T, 藤井 F
 統合学習プログラム 渡部 P
 実行型学習プログラム 地域 L, 管理 Cp, 保全 Cr の各学習プログラム
 環境教育委員 関心 G, 仲間 G, 林 G, 松本 G, 坂本 G, 佐藤 G, 山本 G, 佐藤 G

自然と文化を学び、考える

学びはどこでも、いつでも。学校任せにしない

伝統地域⇒ 近代学校制度⇒ 現代国際化⇒ 未来文明



Local ⇒ Global ⇒ Sustainable

図1 人類の文明社会の複雑化に適応する生涯にわたる環境学習過程の構造(作業モデル6)。